

昭和十六年八月發行

南

京

南京日本商工會議所編

兒童及育嬰所から送られた者を収容した。二十五年末迄の収容數四九名。該所では棲湖組(棲)、裝釘組(製本)、木印組(木版印刷)、鉛印組(活字印刷)、石印組(石版印刷)、排字組(活字捨)、鑄字組(活字造)、化學工藝組、肥皂組(石鹼)に分つて手藝を教へたが、孤兒が成年に達すれば其の家族或は保證人に通達して引取らしめ、引取人無き場合は救濟院から職業紹介の勞をとり社會に送り出した。

〔婦女教養所〕 該所で収容する婦女は首都警察廳及首都地方法院から送られたものゝ貧困なる者及遺棄された者或は虐待に堪へざる者にして救濟院で事實なりと認めた者、節を守らんとする者等で、二十五年末迄の収容人數は總所一四三名第一分所二三八名第二分所三三〇名であつた。該所では理髮、手拭製造、ミシン、支那靴製造等を教へてゐた。家族ある出院希望者は家族の保證の下に出院を許し、家族なく既に結婚期に達した者は院から之が配偶を決定して出院させ、配偶者無きも自活の道を講じ得て年齢に達したる者或は結婚を欲せざる者も適當なる保證を以て出院が許された。

〔養老所〕 本所には頗る邊なき貧困なる老人を収容したが、二十五年末迄の収容人員は四四七名であつた。此處では園藝、牧畜、糞及タドン製造等を教へた。

〔殘廢所〕 該所は貧困なる廢疾者を収容して養老所と同じ業を教へた。二十五年末迄の収容人員は四四七名であつた。

〔水上救護所〕 該所は烈山、犢兒磯、大勝關、笆斗山、周家山、三港口に分所を設け、救護船十二、巡視船二を有し、常に水上の救護作業及水面浮遊屍體収容に當つた。

### 以上の外救濟院の活動を見るに、

〔救濟院第一分院〕 市政府は笆斗山に難民乞食收容所を設置したが、救濟院各所の収容人員激増に鑑み、二十五年七月救濟院游民督禁所と難民乞食收容所を合併して救濟院第一分院とした。同年十二月末迄の収容人員は二〇七四名であつた。

〔授產場〕 救濟院は從來の印刷工廠、婦女工藝、游民工藝の三部を擴張するため、民國二十五年八月新に工藝科目を増加し、從來の印刷工廠は其の規模を擴大し、郊府山の工場を第一工場第二工場に分ち、第一工場はミシン・靴下・靴・草鞋・手拭・手提・理髮の七科に分ち、第二工場は麻柳箱・草鞋・木工・石鹼・雜巾の六科に分ち、笆斗山第一分院を第三工場として棟瓦・草鞋・竹細工・蘿の四科に分つた。

以上が救濟院の活動狀況であるが、民國二十四年度に於ける該院の經費は左の通りであつた。

名 稱 要 總 金 額	業 主 持 人					
	成 立 年 月 事	計 算 件 件 給 費	事 務 費	設 備 費	特 別 費	地 址
佛 教 慈 幼 院	民 十 五 年	孤兒收容教育及施材				下關三汊河
慈 普 會	民 十 一 年	物品給與・施藥・施茶・埋葬				
中華理教拒毒同志會	民 十七 年	禁酒禁煙勸告・施材				
禁 毒 堂	清 同 治 五 年	借字(文字・マル紙・捨ヒ集メテ焼ク)	王 兆 祥	張 萬 有	張 斌	龍 韻 秋
禁 毒 堂	清 同 治 十 年	救恤・施材・施藥・借字・埋葬	李 府 巷	南 門 外 舊 居		
禁 毒 堂	清光緒二年	積穀				
普 善 堂	清光緒二年	哺嬰・救恤				
甘 仲 琴	民 十 一 年					
劉友伯	民 十 一 年					
佔衣廊	民 十 一 年					

△南京市公益慈善團體一覽表

名 稱 要 總 金 額	成 立 年 月 事	業 主 持 人	地 址
佛 教 慈 幼 院	民 十 五 年	孤兒收容教育及施材	下關三汊河
慈 普 會	民 十 一 年	物品給與・施藥・施茶・埋葬	
中華理教拒毒同志會	民 十七 年	禁酒禁煙勸告・施材	
禁 毒 堂	清 同 治 五 年	借字(文字・マル紙・捨ヒ集メテ焼ク)	王 兆 祥
禁 毒 堂	清 同 治 十 年	救恤・施材・施藥・借字・埋葬	李 府 巷
禁 毒 堂	清光緒二年	積穀	南 門 外 舊 居
普 善 堂	清光緒二年	哺嬰・救恤	
甘 仲 琴	民 十 一 年		
劉友伯	民 十 一 年		
佔衣廊	民 十 一 年		

廣豐備倉

南京中華儉德會民九九年

開國紀念貧兒第一教養院

金陵義渡總局民元年

水災救濟・將兵慰問

積教

金仲琴

黃宗漢

甘仲琴

劉友伯

十廟口

下關三馬路

黃月軒

中華門外雨花路

螺絲轉灣

張斌

陸晉軒

金沙井

白下路

董鏞生

賤開路

周梓園

同左

蔣汝正

陸錫齡

韓家巷

十廟口

張直輔

張青山

綾莊巷

下關美孚街

陳秀山

雨花台

和平門安懷路

和

許朔

金松林

小板巷

十廟口

周招庭

潘樂武

牛皮街

和

張甸侯

陶學樹

善司廟

和

陳經畲

東花園

和

崇義興合厚德正德積廣利善仁善南堂清嘉慶二年

清光緒二年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇善同普樂志復善善善善善

清光緒十七年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清光緒四年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清光緒八年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清光緒二十八年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清同治十三年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清光緒二十二年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清同治五年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清同治十三年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清光緒二年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清光緒十九年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清光緒二十八年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

崇性仁施施施施施施

清光緒二年

施料・施藥・施米・診察

施藥・施茶・埋葬・教育

施藥・施茶・施衣・施米

之等慈善團體も貧民難民に對し育嬰、養老、孤兒教養、施衣、施藥、施材、施米等を行つた。

〔冬賑〕 市政府は特に冬季衣食に困窮する難民に對し「冬賑」(冬季救濟)を行つたのであるが、民國二十三・四兩年度の冬賑状況は左の通りであつた。

年別	教	濟	人數	施衣件數	施米石數	全年度教濟經費	現
	合計	男	女				
二十三年	一五九、三八五	二〇〇、三五二	五九、〇三三	四、六八五	二、〇〇〇	二六、五七九・一四	
二十四年	一四一、九一四	七九、四七二	六二、四四二	一三、五三六	三、二六五	三七、八三九・九五	

事變によつて南京に取残された住民の中には家を焼かれ親兄弟に分れた難民が多く、又近郊から南路、中山北路城壁を以て劃された區域)を難民區と定めて收容し、軍官協力之が救濟に當つた。振務委員會 民國二十七年南京督辦市政公署は難民救濟の企劃機關と振務委員會を設け其の實行機關として社會局内に振務股を設け市内各救濟施設を其の統制下に置いたが、左に該委員會民國二十七年度收支報告を掲げ以てその活動状況を見る事としよう。

△市政公署振務委員會收支表(自二十七年五月至十二月)

一、收入行政院ヨリ下附教濟金	一五〇、〇〇〇・〇〇	同上	燕子磯區公所渡	一、三〇〇・〇〇
二、支出以工代振、工務局、道路橋樑下水修理	六、六六七・四〇	同上	八卦洲辦事所渡	四九、八〇
同上 財政局、平民住宅修理	一〇、二〇七・七四	橋樑木料費、上新河區公所渡	一〇〇・〇〇	
同上 衛生局、清潔作業費	二、八七三・八七	各教濟機關補助	四、一〇〇・〇〇	
同上 燕子磯區公所、提防工事	一、四〇〇・〇〇	難民送歸費	一〇九・〇〇	
防水工事費、工務局渡	二、七六一・二八	麻袋購入、財政局	一〇〇・〇〇	
		教濟米購入 財政局	一三、四五六・〇〇	

同上 社會局	三、八五七・二四	救濟院印刷廠流動資金	八四〇・〇〇
寄贈麵粉運搬包裝費	七三七・五〇	農具製造費	二、〇〇〇・〇〇
耕牛購入及飼育費	二、四三八・三七	收容所雜費	三七一・三〇
小口貸付基金 財政局渡	二〇、〇〇〇・〇〇	其他雜項救濟費	二、二四五・〇〇
防疫費 健生局渡	五五、五一七・一六	殘高	二五、四八〇・七四
南京市立紡績工場經費	六、六六七・四〇		

民國二十八年度に於ける該會の支出は左の通りであつた。

一、救濟品購入	一三、二三五・四八	三、緊急救濟	四九、六八四・七〇
二、以工代振(難民を勞働に使役)	一八、五三七・〇〇	合計	八一、四四七・一八
又該會は米糧缺乏米價高騰に鑑み所謂「平使」(政府で米を買上げて米價高騰の際之を賣出し米價を調節する法)を行つた。民國二十八年六、七、八月の平羅米一二九二石二斗三升、糙米人口三一七六四名であつた。			
又該會は民國二十七年冬南京各界及慈善團體を網羅して南京市各界冬振(冬期救濟)聯合會を組織し、行政院から十萬元の支出を受け、二十七年十二月から二十八年三月迄左の如く三回に分つて難民救濟を行つた。			
第一回(城區)米一、四四六石二升、衣服一、六〇八着、(鄉區)衣服七〇三着			
第二回(城區)米一、五八三石七斗五升、衣服一、九五五着、(鄉區)米一、三〇〇石、衣服二、〇〇〇着			
第三回(不明)			

更に民國二十八年七月一日から同月十五日迄城區に於て春暉を行ひ二三九七石三升を難民に分與した。同年冬季の冬賑は十萬元を基金とし、内七萬元を購米金、一萬元を購衣金として計劃されたが其の實質状況は本誌に記載出来なかつた。其他該會は農村に對し耕牛を購入配付し、或は貧困農民に對し農具を製造貸與し、或は二十八年七月の大風に災害を蒙つた難民に對し行政院より一千元の救恤金を受け之を分與し、又火災に燒出された難民に對しても米及金子を分與した。

以上の外該會は下記の各救濟機關を指導し經費を給與或は補助して難民救濟に勉めてゐる。

三  
九

**教濟院**　前述のまほらに新設得て右を主として市立教濟院と改名されたが、市政公業成立と共に再び市立教濟院と改名された。但し經費及交通の都合で該院所屬各所を全部復舊する事が出来ず民國二十七年度に於ては先づ養老所・殘廢所・婦女教養所・孤兒所・印刷廠を復歸して難民を收容した。同年度中の收容人員男六四五名・女一二四一名・計一八八六名であつた。二十八年度には鄧府山分所も復歸し別に臨時婦女收容所も設けたが、同年度末に於ける收容人員は一八三五名であつた。

を四所に減らし、内二所は専ら幼老廢殘者を收容糧食を給し他の二所は單に居住を許可するに止めた。

慈善團體 南京市にあつた民間各種慈善團體は事變の爲資金難に陥り一時停頓したが、振務委員會の補助を受け漸次復舊し民

(團體名) (開設年月日) —— 基仁善堂 (同上) 基道善堂 (廿七年二月)

明德慈善堂 同有  
中國紅十字會 同有  
中華基督教監理會 同有

香齋先生集卷之三  
者心觀善堂（同有）  
普善堂（同有）  
下闢樂善堂（廿八年二月）

南京慈善堂 同年九月  
金陵承善堂 同年四月  
湘院寄陈信善堂 同年四月

南京德育崇善會  
（同年十一月）

中國社會事業協會 民國三十年二月に成立、湖南路に在る政府社會部内に本據を置き、陳公博・周佛海・梅思平・陳肇・林伯生・岑德廣の諸氏を名譽理事長に、丁默邨氏を總理事長として正記の如く實質的運営を行ふ。

卷之三

卷之三

（成吉思汗の死後、蒙古は分裂したが、元朝は、そのうちの一つである。）

人才登記及調查  
營業保健事業 平民醫院、巡迴病車、保健指導、疫疾預防、藥品改良  
婦孺教導事業 婦孺指導、平

（社會事業）新會教育事業、不平識字學校、盲蠟學校、巡迴圖書車或圖書攤、劇團、〔合作事業〕、〔其他社會事業〕

## 第三項 人事

第三項 人事

第一目 姓名國籍改更

此の變更を欲する者は内政部規定の改名及冠姓條例に照し各關係書類に寫眞を添へ社會局に提出  
する。此の社會局は之が嚴密なる調査をなしたる後内政部に通達して之を許可した。又歸化及國籍復歸  
の件は國籍の取得並に國籍離脱は中華民國國籍法により規定金額及寫眞を送付すれば社會局は之が調

## 第二目 結婚及離異